

震災救助技術合同訓練概要

1 目的

東日本大震災及び広島土砂災害における緊急消防援助隊活動を踏まえ、また、今後発生が危惧されている南海トラフ地震等の大規模災害への災害対応能力の更なる向上及び知識・技術を救助隊員に習得させることを目的とする。

2 実施日時

2016年（平成28年）3月11日（金）9時30分から17時00分まで

3 実施場所

福山市箕沖町60番地
消防局訓練場

4 訓練内容

大規模地震等の災害現場において、倒壊建物等の下敷きや生埋めとなった要救助者の搜索救助訓練

- (1) ムービング
- (2) クリビング&リフティング
- (3) 想定訓練

5 訓練スケジュール

9時30分	開講式
9時45分	} 訓練開始（ムービング・クリビング&リフティング）
～	
12時00分	
13時00分	} 想定訓練（14時46分 黙とう）
～	
16時00分	
16時45分	閉講式

6 参加人員

- (1) 南消防署高度救助隊 8人
- (2) 北消防署駅家分署救助隊 8人
- (3) 西消防署救助隊 2人
- (4) 芦品消防署救助隊 2人
- (5) 深安消防署救助隊 2人
- (6) 府中消防署救助隊 2人

【午前の部】・・・各種技術の習得及び共有を目指し、要救助者の救出を行う。

ムービング

ムービングとは活動(進入)の障害となっている重量物等を安全に移動、排除する技術である。既に安定している状態である重量物を移動させることは危険を伴うため、必要最小限の移動により排除しなければならない。

今回の訓練では大バール(長さ150cm)を使用したこの原理によるメカニカル・アドバンテージを活用し船漕ぎの要領で重量物を移動する。

クリビング&リフティング

クリビングとは、一定の長さの木材(クリブ材)をやぐらに組むように積み重ね、重量物等の荷重を受けることで安定化を図る技術である。

リフティングとは、重機等が活用できない(進入できない)現場においては、エアマット、油圧ジャッキ等の救助資機材や専用のバール等で「この原理」を活用して重量物を持ち上げる(この際、クリビング等により安定させることを第一とすること)。

クリビング&リフティングは、他に進入する経路がない場合等において、障害となる重量物などをクリビングにより安定化を実施しながら必要な高さまで持ち上げ、進入経路等を確保する技術である。

今回の訓練ではムービングと同様、大バールを使用したこの原理によるメカニカル・アドバンテージを活用し重量物を持ち上げ、その後エアマットを使用する。

クリビングにあってはソリッドベアリング(クリブ材を組み合わせたもの)を使用して組み替えない(回さない)手法を行う。

【午後の部】・・・福山市内で発災したことを想定し、各救助隊の混成チーム及び応援救助隊を交えた実災害に即した実践的訓練を行う。

災害概要

平成28年3月11日(金)午前10時ごろ、広島県福山市を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震が発生、その周辺市町でも震度6弱を観測した。この地震により多くの家屋や建築物が倒壊し、各所で火災も発生し、死者、負傷者が多数発生している。今後被害はさらに拡大する模様であり、福山地区の消防力のみでは対応が困難であることから、緊急消防援助隊の応援を要請している。

福山救助混成隊は被災場所多数のため限られた消防力で箕沖町の倒壊建物の現場へ出動する。現場にはすでに現場指揮本部が設定されているため、詳細については現場で確認を行うこと。

ブリーチング

ブリーチングとは、要救助者が内部に閉じ込められている座屈耐火建物等で、他に進入する手立てがない場合において、隊員の進入口及び要救助者の救出用開口部を設定するために、鉄筋コンクリート造等の天井、壁、床等を部分的に破壊する技術である。

しかし、地震等により座屈した建物の壁等を部分的にでも破壊することは、座屈を一層助長する等の危険を伴う可能性があり、ブリーチングの実施は最後の手段とし、必要最小限の破壊とすること。

また、ブリーチングにはダーティーブリーチングとクリーンブリーチングの2種類の手法がある。ダーティーブリーチングとは開口部設定予定場所付近に要救助者がいない場合に、迅速に鉄筋コンクリート等を破壊し、開口部を設定する方法。クリーンブリーチングとは開口部予定場所付近に要救助者がいる場合に、要救助者に鉄筋コンクリート等の切断片等が落下しないように配慮し、鉄筋コンクリート等を破壊、開口部を設定する手法。

CSRМ

狭隘空間(Confined Space Rescue)で行う救助・救急活動のことをい

う。震災時などで倒壊した建物内部に出来るV o i d（空間）は要救助者の生存が期待できる場所でありその様な場所での活動が余儀なくされる。進入隊員はP P E（個人防護装備・・・ヘルメット，ゴーグル，でこライト，膝肘パッド，耳栓，グローブなど）を装備し内部への進入を行う。

マーキング

現在，緊急消防援助隊で採用されているマーキング方式を用いて実際にペイントマーカーでのマーキングを実施する。